

埼玉県の救急医療の状況等について

令和 5 年 6 月 1 2 日
救 急 医 療 部 会

1 本県の救急搬送の状況

(図1)

令和4年の救急搬送人員は年間339,587人で、新型コロナウイルス拡大による外出自粛などの影響で減少した令和2,3年に比べ、大幅に増加した。

救急告示医療機関数は横ばいの中、救急搬送人員の増加に加え、新型コロナウイルス感染症の対応により医療機関の負担は増している。

(図2)

このような状況から、本県の重症以上の患者受入率は令和4年52.9%となっており、平成29年をピークに低下傾向にある。

(図3)

また、重症以上の患者受入照会回数が4回以上となった割合は、平成30年以降上昇し、令和3年7.2%(全国46位)、令和4年は更に上昇して10.7%(速報値)となっている。

図1 救急搬送人員と救急告示医療機関数の推移

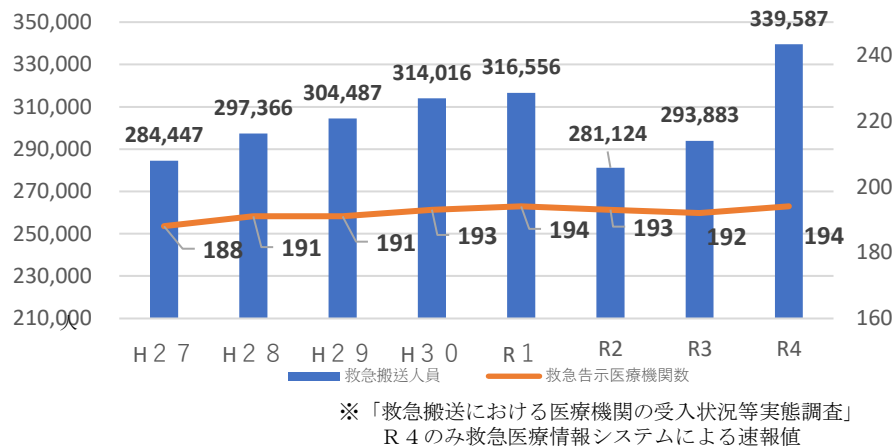


図2 重症以上の患者受入率の推移

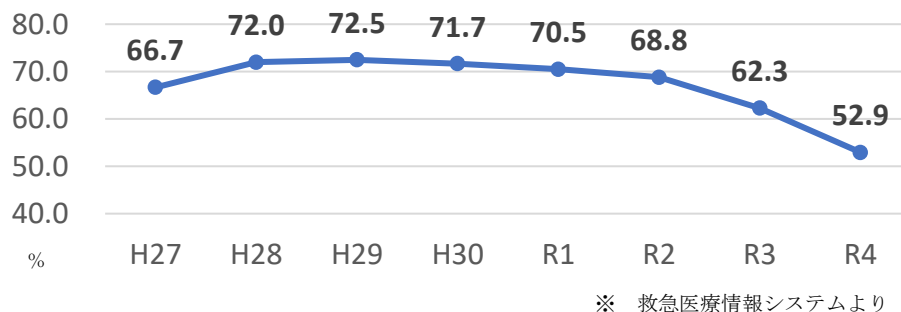
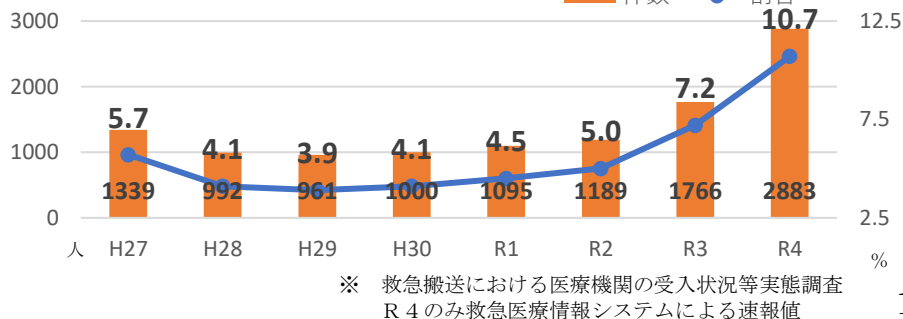


図3 受入照会回数が4回以上となった割合・件数の推移 (重症以上)



2 本県の重篤事案の救急搬送の状況

(図4)

重篤及び重症度・緊急度の高い事案（※「以下「重篤事案」という）の患者搬送人員は令和3年までは、年間15,000人前後で推移していたが、令和4年は、年間17,899人と1.13倍の増加となった。

※搬送実施基準では、観察基準で「重篤」及び「緊急性のうち重症度・緊急度の高い」事案を救命救急センターの適応事案としている。

(図5)

重篤事案の患者受入率は令和4年は54.2%で、重症以上の事案と同様に平成29年をピークに低下傾向にある。

(表1)

重篤事案は本来であれば、1回の受入照会での収容が望ましいが、令和4年は5,880件（32.9%）の事案が1回の受入照会では搬送先が決まらず、2回目以降の照会での受入れとなっている。

(図6)

また、令和4年の重篤事案の患者受入照会回数が4回以上となった割合は10.1%で、平成30年以降上昇している。

図4 救急搬送人員の推移（重篤事案）

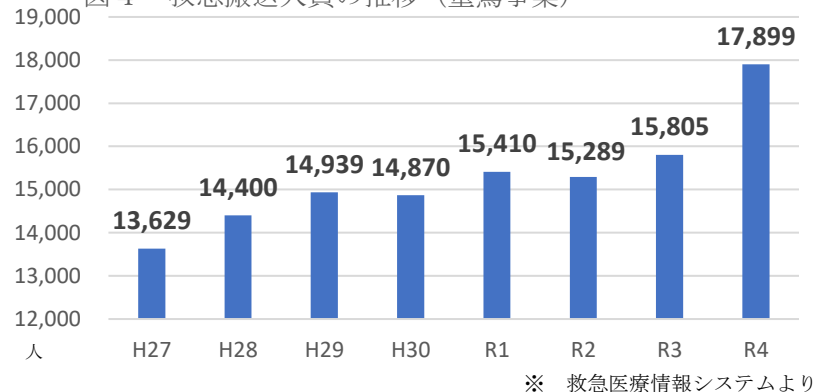


図5 患者受入率の推移（重篤事案）

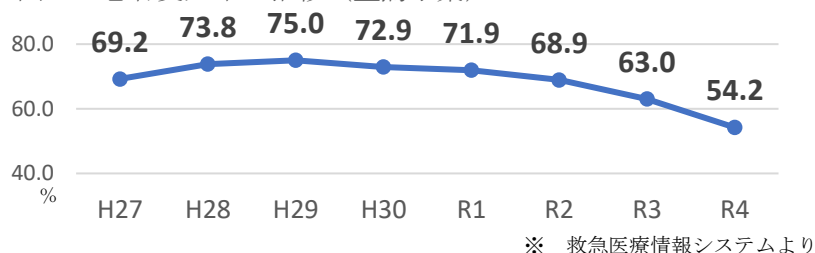
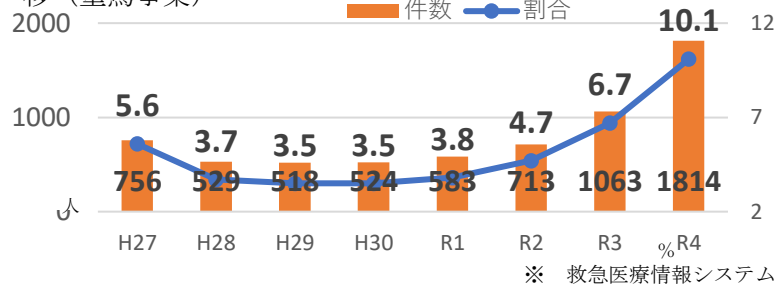


表1 緊急かつ重篤患者搬送実績（令和4年）

	合計		1回		2回以上	
	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
県全体	17,899	100	12,019	67.1	5,880	32.9

※ 救急医療情報システムより

図6 受入照会回数が4回以上となった割合の推移（重篤事案）



3 救命救急センター設置状況等について

(図7)

全国の救命救急センター設置数は、平成27年から21施設増加し、令和4年12月31日現在の設置数は300施設となっている。

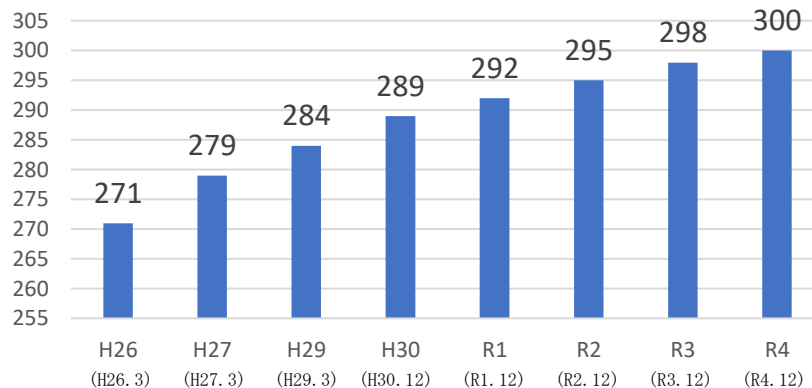
本県では、令和4年6月に社会福祉法人恩賜財団済生会支部埼玉県済生会加須病院が救命救急センターに指定され、全11施設となっている。

人口100万人当たりの設置数の比較では、全国平均の2.40（人口41.6万人に1か所）に対して、本県は1.50（人口66.6万人に1か所、全国46位）となっている。

(図8)

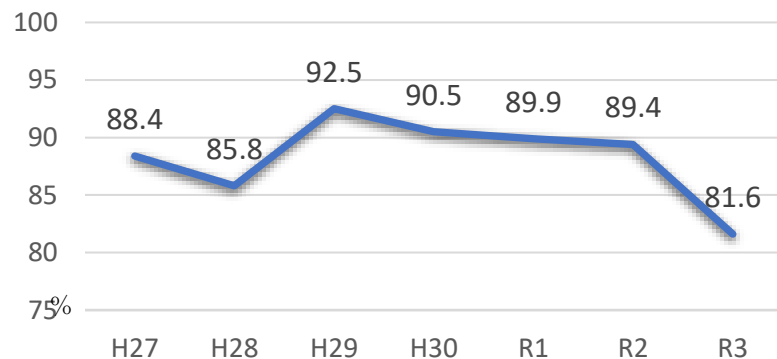
また、県内の救命救急センターの患者の受入率を見ると、令和3年は81.6%で、平成29年をピークに低下傾向にある。

図7 救命救急センター設置数の推移



※ 救命救急センターの充実段階評価

図8 患者受入率の推移（救命救急センター）

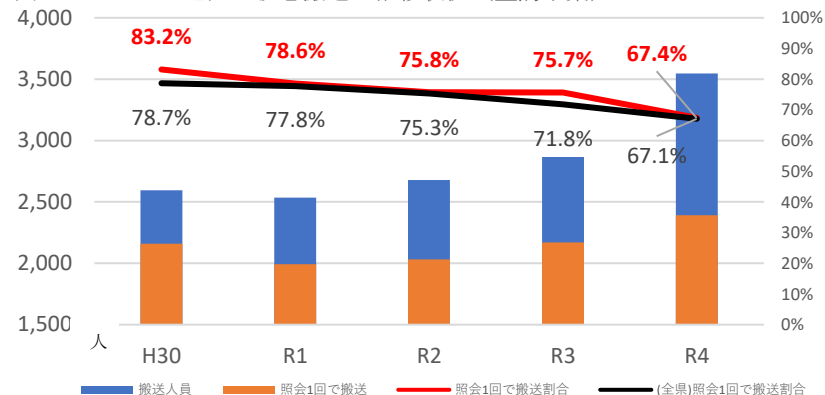


4 各地区の重篤事案の救急搬送の状況

(1) さいたま地区 (さいたま市)

(さいたま地区)	R1	R4
重篤事案の患者搬送人員	2,535	→ 3,548
照会1回で搬送先が決まった件数	1,992	→ 2,391
	78.6%	67.4%
覚知～病院収容平均時間 (分)	38.2	→ 45.9

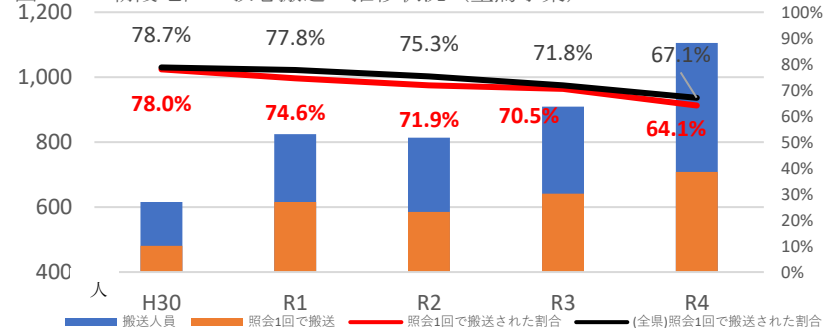
図9 さいたま地区の救急搬送の推移状況 (重篤事案)



(2) 朝霞地区 (朝霞市、志木市、和光市、新座市)

(朝霞地区)	R2	R4
重篤事案の患者搬送人員	824	→ 1,105
照会1回で搬送先が決まった件数	588	→ 708
	71.4%	64.1%
覚知～病院収容平均時間 (分)	44.1	→ 51.5

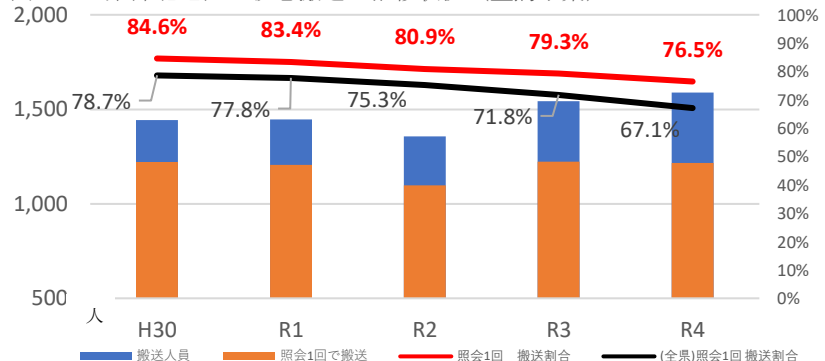
図10 朝霞地区の救急搬送の推移状況 (重篤事案)



(3) 東部北地区 (加須市、羽生市、蓮田市、久喜市、幸手市、白岡市、杉戸町、宮代町)

(東部北地区)	R3	R4
重篤事案の患者搬送人員	1,544	→ 1,590
照会1回で搬送先が決まった件数	1,224	→ 1,217
	79.3%	76.5%
覚知～病院収容平均時間 (分)	44.5	→ 47.6

図11 東部北地区の救急搬送の推移状況 (重篤事案)



5 各医療機関ごとの状況

(1) さいたま市立病院（令和2年12月1日指定）

(表2)

令和4年の受入れ人数は、指定直後の令和3年に比べ、救急搬送人数、重篤患者数ともに増加し、特に重篤患者数は、前年比1.5倍となった。

当初、指定後の重篤患者の受入れを808名と見込んでいたが、令和4年にはそれを上回る患者の受け入れをしている。

(図12)

令和4年に、さいたま地区で救命センターに搬送された事案のうち、約95%が3病院に搬送されており、さいたま市立病院には約27%が搬送されている。

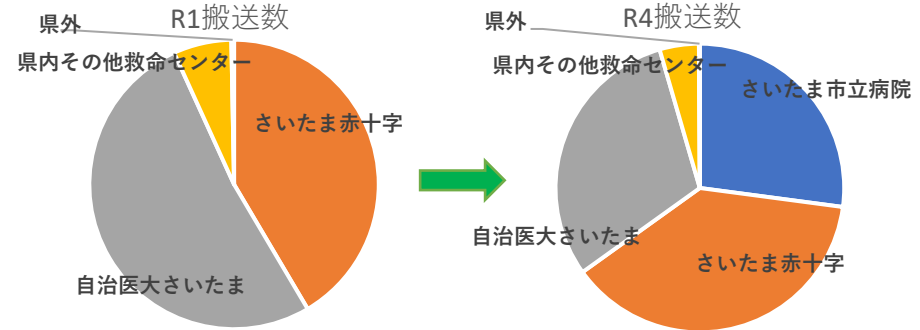
(表3)

救命救急センターへの搬送時間については、覚知～収容、現場滞在時間は増えているものの、県平均よりも短い時間で搬送している。

表2 さいたま病院の搬送件数(充実段階評価より)

	R2	R3	R4
救急搬送人数	514	7,055	7,364
重篤患者数	83	774	1,165

図12 さいたま地区で救命救急センターに搬送された事案の割合



※ 救急医療情報システムから抽出。

表3 救命救急センターに搬送された事案の搬送時間

R1	覚知～収容	現場滞在時間	現発～収容
さいたま地区①	0:40:18	0:18:13	0:13:42
全県②	0:45:54	0:19:48	0:17:27
差(①-②)	-0:05:36	-0:01:36	-0:03:44

R4	覚知～収容	現場滞在時間	現発～収容
さいたま地区①	0:45:24	0:22:09	0:13:41
全県②	0:51:32	0:23:55	0:17:50
差(①-②)	-0:06:08	-0:01:46	-0:04:09

※ 救急医療情報システムから抽出。 5

(2) 独立行政法人国立病院機構埼玉病院
(令和3年5月1日指定)

表4 国立病院機構埼玉病院の搬送件数(充実段階評価より)

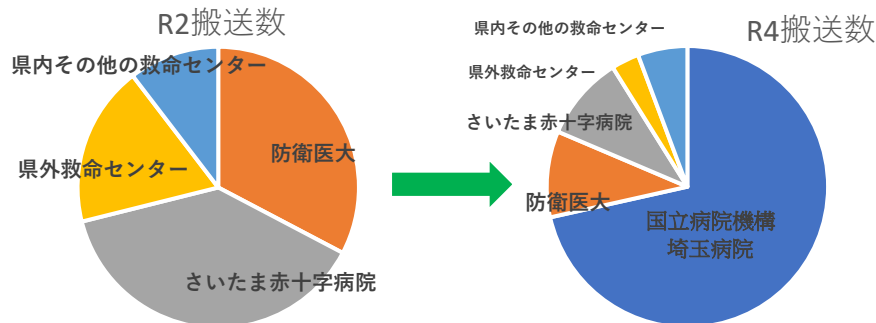
	R3	R4
救急搬送人数	5,158	6,580
重篤患者数	1,182	1,370

(表4)

令和4年の受入れ人数は、令和3年に比べ増加している。

当初、指定後の重篤患者数を1,012名と見込んでいたが、それを上回る患者の受入れを行っている。

図13 朝霞地区で救命救急センターに搬送された事案の割合



(図13)

朝霞地区の救命救急センターへの搬送は、指定前の令和2年は、近隣の防衛医科大学校病院、さいたま赤十字病院、県外への搬送が多くを占めていた。

令和4年に朝霞地区で救命救急センターへ搬送された事案のうち、約7割を埼玉病院で受入れている。

表5 救命救急センターに搬送された事案の搬送時間

R2	覚知～収容	現場滞在時間	現発～収容
朝霞地区①	1:00:07	0:22:57	0:27:27
全県②	0:45:33	0:18:52	0:17:52
差(①-②)	0:14:35	0:04:05	0:09:35

(表5)

救命救急センターへの搬送時間についても、覚知から収容までの時間は約8分減少し、現発から収容に要した時間も約8分減少している。

R4	覚知～収容	現場滞在時間	現発～収容
朝霞地区①	0:52:36	0:22:11	0:19:45
全県②	0:51:32	0:23:55	0:17:50
差(①-②)	0:01:03	-0:01:44	0:01:54

(3) 社会福祉法人恩賜財団済生会支部
埼玉県済生会加須病院（令和4年6月1日指定）

(表6)

当初、指定後の重篤患者の受入れについて、年間820件と見込んでいた。

指定後の7か月で475名の受入れを行っており、概ね見込みとおりになっている。

(820件/12月=68.3件/月)

(図14)

東部北地区の救命救急センターへの搬送は、指定前の令和3年は、自治医科大学附属さいたま医療センターやさいたま赤十字病院への搬送が多くを占めていた。

指定後は、東部北地区の救命救急センターへの搬送のうち、7割以上の受入れを行っている。

(表7)

搬送時間を見ると、覚知～収容までの時間は約2分、現発～収容までの時間は約11分短縮されている。

県全体の平均時間との差も改善している。

表6 済生会加須病院の搬送件数(充実段階評価より)

	R4
救急搬送人数	3,175
重篤患者数	475

図14 東部北地区で救命救急センターに搬送された事案の割合

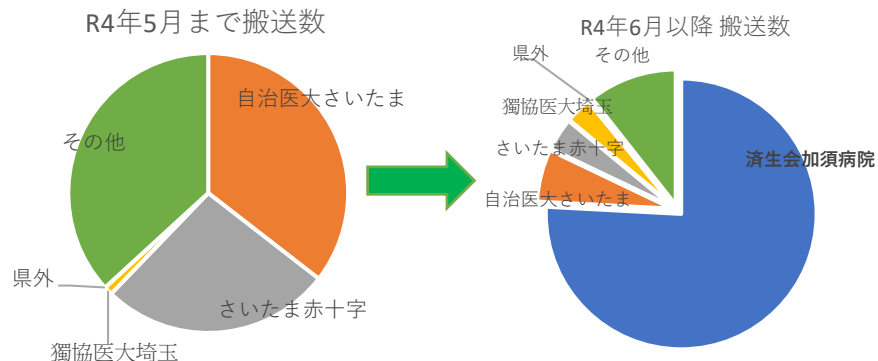


表7 救命救急センターに搬送された事案の搬送時間

R3	覚知～収容	現場滞在時間	現発～収容
東部北地区①	1:04:29	0:17:13	0:38:13
全県②	0:47:17	0:19:55	0:18:16
差(①-②)	0:17:12	-0:02:43	0:19:57

R4	覚知～収容	現場滞在時間	現発～収容
東部北地区①	1:02:38	0:23:16	0:27:57
全県②	0:51:32	0:23:55	0:17:50
差(①-②)	0:11:06	-0:00:39	0:10:07

(参考)

令和4年救命救急センターの充実段階評価の評価結果（令和4年実績（令和4年1月～12月に基づく評価））

	医療機関名	評価項目の 合計点数	是正を要する項目の 合計項目数	評価
1	さいたま赤十字病院	96	0	S
2	埼玉医科大学総合医療センター	96	0	S
3	深谷赤十字病院	76	1	A
4	防衛医科大学校病院	78	1	A
5	川口市立医療センター	74	1	A
6	獨協医科大学埼玉医療センター	87	1	A
7	埼玉医科大学国際医療センター	95	0	S
8	自治医科大学附属さいたま医療センター	98	0	S
9	さいたま市立病院	83	0	A
10	独立行政法人国立病院機構埼玉病院	85	0	A
11	社会福祉法人恩賜財団済生会支部埼玉県済生会加須病院	51	1	A